

行 政 報 告

(令和6年第4回定例会)

(報告事項)

- 1 農作物の作柄状況について
- 2 建設工事の進捗状況について

令和6年12月11日

行政報告（令和6年第4回定例会）

令和6年第4回厚真町議会定例会にあたり、次の2点についてご報告申し上げます。

（農作物の作柄状況について）

農作物の作柄状況についてご報告いたします。

本年は8月後半の大雨による倒伏や河川の氾濫による土砂流入などの被害を受けた地区もあった中で、最終的に各作物の収量・品質は平年並からやや高い水準となっています。

水稲については、農林水産省が11月19日公表した作況指数(暫定値)は、全国は102、北海道は103の「やや良」となりました。

米の出荷量は、カントリー概算精算見込製品数量が約5千926トン・約9万8千771俵(昨年5千947トン・約9万9千118俵)となっており、このうち主要品種である「ななつぼし」で約4千28トン・約6万7千143俵、「ゆめぴりか」で約1千751トン・約2万9千184俵となっています。規格外米を合わせると約7千255トン・約12万932俵(昨年約7千195トン・約11万948俵)の出荷を見込んでいます。米の食味の評価となるタンパク質含有率は、「ななつぼし」の低タンパク率(6.8%以下)は22%(昨年16%)、「ゆめぴりか」の基準品(7.4%以下)は40%(昨年47%)の見込みとなっています。6月3半旬以降は記録的な高温で経過し、生育は早く進み、^{かんちょう}稈長も長く穂数もやや多く不稔粒も少ない出来となりました。幼穂形成期から出穂期、成熟期にかけて順調に経過しましたが、8月後半の大雨により倒伏したほ場が目立ち、一部では白未熟粒等が散見されましたが、総じて良好な見込みです。

秋まき小麦は、穂数がやや多く、登熟期間が平年並に確保され、収量は平年より多くなっています。なお、令和7年産の秋まき小麦は、は種後の気温が高めに推移しており、越冬前の生育量は確保されています。

大豆は、収量は平年を上回る見込となっています。

小豆は、開花後の高温と少雨の影響を受け、収量は平年を下回る見込みとなっています。

てん菜は、7月中旬以降、高温多湿の影響による病気や、害虫による葉の被害を受けたほ場も散見されましたが、防除の実施や品種の切り替えにより昨年に比べると発生は少なくなりました。生育期間を通して、気温は高く経過しましたが、収量は平年より多く、根中糖分は平年並みの見込みです。

そ菜園芸は、南瓜・馬鈴薯等が豊作傾向となりました。ブロッコリーは、高温ではありましたが、病虫害の影響も少なく収量は平年より多い計画通りの出荷となりました。

ハスカップは、着果のバラツキにより減収となり、出荷量は激減しました。

花きは、高温の影響により前進開花となり草丈が短く、花付きも悪く品質低下となりました。

畜産については、酪農では令和5年度の猛暑の影響により牛が弱った影響が大きく、8月頃までは生産乳量の回復に至りませんでした。今夏は昨年と比較して暑さも軽減されたため、今後は生産乳量が増加に転じる見込みです。乳価は、令和5年度の乳業メーカーとの乳価交渉による改定後の価格で安定して推移しています。

肉牛では、観光やインバウンドによる和牛需要が高まってきたものの、肥育枝肉相場の低迷により全国的に素牛市場の相場が下降しており、先行きが不透明な状況が続いています。養豚では、節約志向による牛肉からのシフトが続き、

輸入物の価格高騰、国内における猛暑の影響による国内の出回り頭数減少から相場は高く推移しています。

本年も気象変動が激しく、難しい生育管理が求められる中で、収穫前には令和の米騒動とも呼ばれる全国的な米不足も発生しました。燃油、肥料、飼料等の資機材価格も依然として高止まりしており、畜産については厳しい経営状況が続いていますが、新米の流通開始後も米を始めとした農作物価格は高値で安定しており、生産費の価格転嫁が見られるようになってきています。このように農業経営においても様々な影響を受けた中で、主要作物は総じて平年並みからやや高い水準の作柄となりました。

(建設工事の進捗状況について)

次に、建設工事の進捗状況についてご報告いたします。

土木工事については、北海道が実施している道道工事は、厚真浜厚真停車場線の上厚真市街地付近から厚真インター方面へ400mの改良舗装工事が令和5年度に完成し、令和6年度は延長576mの改良舗装工事が来年3月の完成を予定しています。また、表町における表町バイパス線と交差する千歳鷓川線の交差点改良工事は、来年3月の完成を予定しています。更に、上厚真大橋・豊川橋・大黒橋の3橋梁の補修工事を進めており、令和7年度の完成を予定しています。

二級河川では、厚真川が国道235号線から上流へ1.4kmの改修工事が完了し、入鹿別川は長沼川合流点から上流約2.0kmから2.7kmまでの改修工事及び上流4.1km地点の農道橋架替工事（地盤改良工）が令和7年度の完成を予定しています。

町道工事は、学園通り線の改良舗装工事、新町宇隆線の舗装工事、本郷通り

線と豊川共和線、豊川上厚真線の舗装補修工事、シュルク沢線の側溝補修工事が完成しており、幌内左岸線の改良舗装工事は50%、上厚真南排水路整備工事は70%、表町バイパス線改良舗装工事は80%、漁業団地排水整備工事は50%の進捗であります。

河川工事では、チケッペ川、軽舞川、分家沢川、東ニタッポロ川、チカエップ川、平井の沢川、本郷の沢川、共和地区排水の浚渫が完成しており、チカエップ川の護岸補修工事は80%の進捗であります。ハビウ川とオコッコ沢川の河畔林伐採は令和7年2月に実施します。橋梁補修工事は官光橋の架替工事が50%の進捗であります。公園工事では幌内マナビィハウス前広場の緑地整備および公衆便所の工事が完成しており、ダム湖眺望広場ほか整備工事は90%の進捗となっています。

また、8月26日から27日にかけての大雨による被害箇所の復旧工事は、単独災では北部地区を中心に多数の箇所が被災しましたが、80%の箇所において補修が完了しています。また公共災は、ハビウ川8箇所の復旧工事を令和7年1月に発注し、3月中旬の完成を目指し進めてまいります。同日被災したチケッペ川の復旧は令和7年8月の発注を予定しています。

宅地耐震化事業については、昨年度から引き続き工事を進めている新町地区および豊沢地区の工事が90%の進捗であり、豊沢地区においては新たな箇所のお仕事を令和6年10月に発注し、令和7年度末の完了予定です。

建築工事では、新町地区において防災備蓄倉庫の建設を行っており、進捗率は60%で来年2月の完成を予定しています。

簡易水道事業については、幌内地区の道道改良工事に伴う配水管布設替工事は令和7年度以降に延期となりましたが、上厚真地区の道道改良工事に伴う配水管布設替工事および上厚真地区の配水管布設替工事、表町地区の配水管新設

工事については、年内の完了を予定しています。

公共下水道事業については、新町マンホールポンプ2号・3号の電気設備更新工事を施工しており、来年1月の完了予定で進捗率は70%、浄化槽市町村整備工事については、設置予定11基のうち9基が完了しており、進捗率は81%となっています。

以上、ご報告申し上げます。